

1. ホイールナット、ホイールボルトの点検

(1) ホイール取付状態の確認 (日常点検)

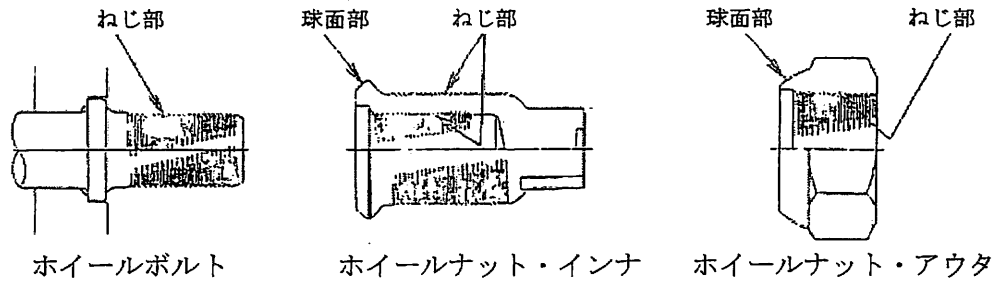
- ・ ホイールナットの脱落、ホイールボルトの折損等の異常がないか、目視により確認して下さい。
- ・ ホイールボルト付近にさび汁が出た痕跡はないか、目視により確認して下さい。
- ・ ホイールナットから突出しているホイールボルトの長さに不揃いはないか、目視により確認して下さい。

(2) ホイールナット及びホイールボルトの緩みの点検 (日常点検・定期点検)

ホイールナットが確実に締まっているかを点検ハンマ等で点検し、緩みがあった場合は規定のトルクで増し締めして下さい。

(3) ホイールナットおよびホイールボルトの点検 (定期点検)

各ねじ部を点検しかじり、欠け、つぶれなどの損傷が著しい場合は交換して下さい。また、ホイールボルトに亀裂のあった場合は交換して下さい。ホイールナットの球面部を点検し、摩耗、傷、変形が著しい場合は交換して下さい。



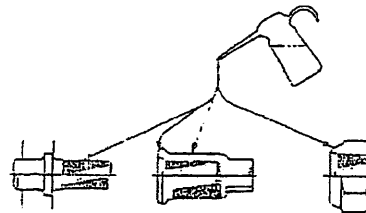
2. ホイール取付要領

ホイールナットのねじ部および球面部のサビ、汚れを全数取り除いて下さい。ホイールの取付面、ナット座面のさび、汚れを清掃して下さい。

(1) ナット締付面が球面座の場合

a. ナットの取付前準備

ホイールの取付はハブボルトのねじ部、ホイールナット・インナのねじ部と球面部、ホイールナット・アウトの球面部にエンジンオイルを塗って下さい。



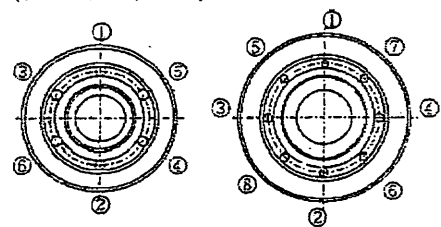
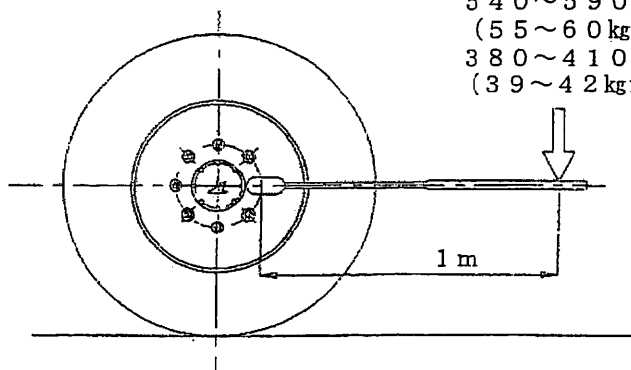
b. ホイールナットの取付

ホイールナットの締付は全数仮締め後、規定のトルクで締付けて下さい。締付トルクは、ホイールの材質により異なります。また、締付順位はボルトの本数により異なりますので、下図により行って下さい。締付にはトルクレンチを使用して下さい。右側用は右ねじ、左側用は左ねじです。トルクレンチが無い場合は下図を参照して締付けて下さい。

規定の締付トルク

540～590 N・m (鉄ホイール)
380～410 N・m (アルミホイール)

540～590 N (鉄ホイール)
(55～60 kgf)
380～410 N (アルミホイール)
(39～42 kgf)



注意

ホイールナットは必ずナット締付面の形状、ホイールの材質に応じた規定のトルクで締付けて下さい。もし、規定以上のトルクで締付けるとボルトのねじ部の損傷あるいはホイール座面の損傷を起し危険です。

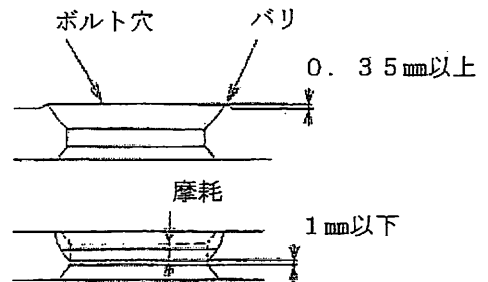
警告

タイヤ交換後50～100km走行したら必ず、規定のトルクで増し締めして下さい。初期なじみにより締付けトルクが低下し、ナットの緩みが発生するとホイールの脱落の危険性があります。また、締付トルクが低下するとホイール取付面のハブおよびホイールが摩耗し、ハブのフランジ部に亀裂を発生させる原因となります。

3. ホイールの点検 (定期点検)

(1) ナット座面、ハブ取付面の点検

ボルト穴のナット座面のバリや摩耗が大きい場合は交換して下さい。また、ホイールのハブ取付面が、段付き摩耗している場合も交換して下さい。



(2) 損傷、亀裂の点検

リム部の損傷、亀裂、ディスク部の飾り穴およびボルト穴の周囲に亀裂の有無を点検して下さい。亀裂が発見された場合は交換して下さい。

